

分科会名 体育科	会 場	川崎市立下作延小学校
	助言者	川崎市立小学校体育研究会 会長 川崎市立白幡台小学校 田村 光司 川崎市総合教育センター指導主事 門口 知弘
令和5年8月23日(水)	提案者	川崎市立宮崎台小学校 齋藤 仁
	司会者	川崎市立下作延小学校 酒井 尚之
	記録者	川崎市立 宮崎小学校 澤山 みづほ
	世話人	川崎市立 子母口小学校 小泉 亮太
	出席者数	名

1 提案の概要

「GIGAトーク～振り返りを意識してみたらどうなる～」

ICT機器（GIGA端末）を活用した授業実践

6年生 器械運動「マット運動」 陸上運動「走り高跳び」の学習を通じた実践

学習の流れ

・「めあてを立てる→活動する→振り返る」の学習の流れの中で、振り返りを意識して学習を行い、学習の最後には動画の提出を行うことで、自分の動画を確認して振り返りができるようにする。

「小さな成長」に気付くように

・できる、できないだけで判断するのではなく「小さなできる」「小さな成長」を大切に

①子供たちとよい動きを共有する

→どのような技や動きなのかがイメージしやすいように動画を活用する。

②めあてにあった動画の撮影

→秒数制限を設け、1つの技につき1つだけ選んで動画を提出する。

③教師の関わり方

→動画の撮影をしているグループに「撮影してどうだった」と聞くことで、子供たちが気付いたこと、考えたことを引き出すことができるように意識する。

まとめ

・多くの子供たちが振り返りをきっかけにして、学習のサイクルが身に付いてきた。

・GIGA端末を活用し、振り返りを意識することでめあて学習が充実していった。

2 研究協議の概要

教師の関わり方

・めあての確認の仕方について

→子供が考えるめあてについて一緒に確認することで、動画を見返してめあてを立てたり変更したりしていた。教師がきっかけを与えた上で、子供たちが自分でめあてを立てられるようにすることが大切。

・技のポイントの伝え方について

→GIGA端末を活用してオクリンクで全員に送っているため、自分たちで好きなタイミングで好きな技や動きを見られるようにした。ただ、動画を自由に見られるようにしておけばよいというわけではなく、単元前半にクラス全員でよい動きを共有しておくことが大切。

・技との出会いについて

→①クラスの中でできる子にやってもらった。

②GIGA端末で動画を見るようにした。

・教師の言葉がけで意識していることについて

→言葉がけは非常に重要。単元の前半と後半で伝え方を変えて言葉かけるようにした。

学習の流れ

- ・時間（45分）の使い方について
- 45分の授業の中でめあてから振り返りまでを行うようにした。ただ、めあてを書く時間は朝の時間を活用することもあった。
- 提出動画を見返すのは時間がかかっている子が多かったため、その日の放課後までに送ってもらうようにした。

ICT（GIGA端末）の活用の仕方

- ・どのようにICT（GIGA端末）を活用していたのか
- 1人1端末を使った。前時までの振り返りは、オクリンクでシートを移動させることで、単元を通していつでも見られるようにしていたため、単元後半は動画を見返す子供が多かった。
- ・安全面について、高跳びなどは危なくない位置で撮影するように言葉がけをするようにした。
- ・動画の撮影、扱いについて
- クラスの実態にもよるが、とくに苦手な子は撮影をすることに抵抗がある子供もいる。子供が動画を見て気付いたことに対して、クラス全員の前でほめていたため、撮影に対する抵抗は少なくなっていた。教師がよさや気付きを認めていくことを大切にした。
- 情報モラルについては事前に指導を行い、見本動画を撮る際は、その子に承諾を得てから撮影し、共有するようにした。

評価について

- ・どんな場面でどんなことを意識して評価しているのか
- 指導と評価が一体化することが大切。技のポイントを知るためには、行動観察をしたり、振り返りを見取ったりする。思考については、工夫をする時間ならばどのような工夫をしたのか、工夫をした上でどうだったのかを見取るようにする。学習指導要領に沿って、全ての子供たちが実践できるような授業を積み重ねていくことが大切。

3 今後の課題

【川崎市立小学校 小学校体育研究会会長 田村 光司 校長先生】

- 振り返りは、発達段階に応じてGIGA端末を使ったり、シールを貼ったりなど工夫して行うようにし、何よりも継続していくことが大切。
- 子供がめあてに沿って活動できているか、めあてが自分に合っているかなど、教師が適切に見取り、修正していく必要がある。
- 体育の技能面での考え方について、できるようになる授業を実践しているか、考えているかが重要。その過程を大事にし、技能があるとより楽しむことができることを知り、もっと楽しくするためには、新しい技や動きに挑戦していく姿や、自分に合った学びで技能を求めていく姿を大切にしていってほしい。
- 教師が「小さなできる」「小さな気付き」に気付くことで、子供たち同士でも気付くことができるようになる。教師がよいところを広めていくことで、友達同士でよいところを認められるような環境づくりをしていってほしい。また、クラスで共有できる学習言語を領域や単元の中で大切にしていってほしい。
- 子供たちの振り返りに対して「いいね」など、一言で終わらせるのではなく、評価について伝えていくようにする。
- 動画の活用の仕方については、活用することでよい点が多く見られたため、上手に使うための実践を積み上げていってほしい。

【川崎市総合教育センター 門口 知弘 指導主事】

* 文部科学省からの伝達講習でした。スライドがあるので、そちらをご覧ください。